

八中3年人権だより

徳島市 八万中学校
3年生 第20号
2024年12月2日
編集・文責 吉成正士

ちは、誰にとっても自然なことであり、それは差別や偏見で否定されるべきものではないと思います。

人は自分より下のものを探し、安心してしまいます。でも自分より上を見ることで人は成長していくものだと思います。今、受験生としての毎日も、目標を高くもつことで目標に向けて頑張れると思います。3年間の人権学習を通して、一人一人が成長できた時間だと思いました。人権学習では知らなかったこともたくさんあり、自分と違う意見にも多く出会いました。人権学習は、一つのお題に対して学年全員が考えて、同じ時間に意見を交換するものでした。今では自分と違った意見にも深く考えられるようになりました。話したことのない子でも、人権学習では学年が一つになるような空間だったと思います。今日で最後の人権学習でしたが、今まで学んだことを忘れないでいようと思います。また、自分の意見をしっかり伝えて、自分は差別やいじめを絶対にしたくないです。

3組HM

自分以下を見つけ出し、求めようとしているうちは、思うような成長は得られないように思います。そんな情けなく下らない生き方ではなく、常に今の自分以上を求めて努力できる生き方ができればと思います。それはしんどいことかもしれませんが、でも、しんどいと思えることにチャレンジする自分は、自分以下を求める自分と比べると、清々しく、自分を褒め称えたいようになるのではないのでしょうか。ちょっとした努力で急に成績が爆上がりすることはないかもしれませんが、むしろ、上がったのかどうか分からないくらいの成果しか得られないものです。でも、結果ではなく、今の自分を誇りに思えるかどうか、大事なことのように思えます。

また、人は弱い生き物です。頑張れる時はいいのですが、そうでないときだってあります。そのときに、心の支えになってくれる友、励まし正してくれる友がいればと思いますし、逆に自分がそういう友であればと思います。人頼みになるだけでなく、自分が誰かの支えになれたり、励まし正せる人になれればと思います。他にもいろんな学びがたくさんあったようです。「みんなで語り合う人権学習」にはいろんな効果があるのですが、それが皆さんの成長に少しでも役立つことを祈っています。



自分の生き方を変えたもの

■僕はこの3年間の人権学習で、部落差別についてたくさんのことを学びました。最初のころは人権学習なんてだるいわかと思ってました。正直、でも人権学習をし始めてから人と話すときに、一言一言の言葉を言っているのかなど考えるようになったり、日常生活でも部落差別について考えたりするようになりました。そう思うと、人権学習は自分の生き方を変えたものだったのかなと感じました。

これからの自分に人生のなかで部落差別に出くわしたり、自分が差別されることもあるかもしれないけど、そういう場面に出くわしたとき、自分は中学生のとき友達と人権について語り合ったということが頭によぎると思います。でもそのとき内容を忘れては意味がないので、これから高校生になって社会人になっても忘れないようにしっかり頭において、それを生かして、良い未来を築きあげていけばいいなと思いました。この3年間人権学習ができて良かったです。

2組KK

「みんなで語り合う人権学習はすべてを変える」

私がこれまでやってきての実感です。もちろんすべての人がというわけではないかもしれませんが、実際にそう思ったように思える教え子たちはたくさんいます。なかにはオリンピック選手になった子もいます。だからといって、いざというときに、学んだことがスラスラと言えるかという、そうは思いません。言えればそれはそれで素晴らしいことですが、でも、だからダメだというわけではないと思うのです。大事なことは、人権というワードに対して興味・関心をもっているかどうか、だからです。少なくとも多くの皆さんが、プラスイメージがもてたのではないかと思います。それがあつた限り皆さんは、否定的な状況に囲まれても、「そうかなあ？」と思えるのではないのでしょうか。人権というワードが聞けると、聞き耳を立てるのではないのでしょうか。その感覚が大事なのです。まずそんな人が増えることです。それのないところに、「はじめの一歩」はありません。信じたいと思います。みんなのそんな、さらなる変化を。



人権学習は人の見方が変わる

■僕はこの中学生最後の人権学習を受けて、改めて家族

やクラスメイトへの感謝を感じることができました。当たり前前あたりまえのことを当たり前あたりまえにできる人がとてもすごいと感じることができました。例えば、人の気持ちを読み取ったり、相手の立場たてまになって考えられることなど、自然にできないようなことを普段からしていけるやさしい人はとてもうらやましいです。いつか僕も、こういう人になっていきたいです。

この3年間、特に2年生前半からの人権学習はとても楽しかったです。人権はどんな方向にも掘って考えることもできて、下に行けば内容はどんどん暗く、悲しくなるようなこともあるけど、掘ってみる価値の方が高いぐらいです。前に僕が発表した「人の見方が変わる人権」を裏づけるような楽しい人権学習じんけんがくしゅうでした。普段クラスで話さない人も、発表や振るまいによって印象が変化してきましたが、今回のタイトルの発表で180度印象が変わった人もいました。「これだから人権は楽しい！」と心から思っていました。高校に入学しても、人権学習は変わらず勉強していきたいです。また、吉成先生が最後に言っていた人権こども塾にも興味があるので、加入してみようと思いました。中学生最後の人権学習は、とても楽しかったです。中学校3年間、みんなと話し合えてよかったです！ 4組OK

そうです。表面だけを薄くしか掘らなければ、分かることも分からなければ、見えないものも見えないままで、面白いとも思えず、その時間自体が無駄むだに思えてくることがあります。その逆に、一か所を深掘りすることで、分からなかったことが分かってきたり、見えなかったものが見えてきたり、面白いと思えたりするのです。だからこの学習も、何回も取り組むことで、深掘りする必要があったのです。

新規加入ありがとうございます。ずいぶん昔の話になりますが、この前お招きした弘瀬さんの子どもさんが高校生だったころ、「高校生の力って本当にすごいなあ」と感じたことがありました。県内いくつもの高校の高校生が人権のネットワークをつないで、それぞれの学校を動かし、ムーブメントを作ったのです。もちろん、じっとしていてもいいとは思いません。積極的に動き、声をあげてつながりをつくり、高校の先生も巻き込んで人権の大切さを訴えていく取組でした。今は時代が変わって、そこまでのことはできないかもしれません。でも、諦めたらそこで試合終了ですよ。

「今、自分にできること」

それを共に考え、行動していける仲間をつくり、広げていけたら、「微力びりよくだけど無力むりよくじゃない」ことが実感できるのではないかと思います。できることなら、県内だけでなく、県外や海外の高校生とつながり、より広い視



野で、この世界を感じてもらえたらと思います。

心の底から思える「出会えてよかった」

■今までたくさんの全体人権学習をしてきましたが、本当にどれも濃かったです。その中でも特に覚えている会は、初めて手を挙げて発表した会です。1年生のとき、最初の最初、こんな大勢の前で手挙げれんわ…と思っていたけど、回数を重ねるうちに発表者がとても格好よく見えて、私も挙げたいという気持ちが大きくなりました。そんな時に、当時担任だった西浦先生に勇気づけられて発表することができました。声は震えるわ、顔は赤くなるわで大変なことになったけど、とてもすっきりしました。また自分の作文を読んだ会も鮮明に覚えています。自分の作文に共感してくれたり、感動してくれたり、何人かは私の作文を通して自分を語ってくれた人がたくさんいて、心が人生で1番と言ってもいいくらい温かくなりました。私の思いが人に届くって、こんなにも嬉しくて嬉しくてたまらないんだと初めて知りました。本当にたくさんの初めての経験をさせてくれた人権学習に出会えてよかったと、心の底から思います。

1組MC

それでも人は忘れます。人はそういう生き物です。でもなかに、私が思う以上に、驚くほどはつきりと鮮明に覚えている人もいます。それはごくごく一部かもしれませんが、多くの方は忘れていくのでしょうか。何を学習したとか、誰がどんなことを言ったとか。悲しいけど、悔しいけど、そういうものなのです。それでも、多くのことを記憶から削ぎ落としても、なかに残るものがあると信じたいと思います。それは、「そういや中学のときに、みんなで集まって何かやってたなあ。何か一生懸命やってた気がする。あの時間は面白かったなあ」でいいと思っています。結局、人の記憶とはそういうものだとも思っています。でも、その具体じゃない抽象的なイメージが皆さんの中に残ることが大事なのではないかと思います。それがあれば、皆さんが大人になったとき、親になったとき、人権をプラスイメージで後世におススメしていけるのではないかと思います。もしそれがなければ、人権は途絶えてしまうかもしれません。そう思うと、皆さんの中に残る「人権のイメージ」こそが、大切な生命線のように思うのです。



思い出を胸に、今を全力で楽しむ

■私は最後の学年全体人権学習で、今過ごしている時間の大切さを学びました。今回の資料の“ふるさと”で感じた